



# 亀中だより

No.18 令和7年8月8日 文責 岡田



## 人権作文に寄せて…

夏休みも折り返し点に差し掛かりました。生徒のみなさん充実した夏休みを過ごせていますか。残り半分の時間を大切にして、元気な顔で2学期に再会しましょうね。さて、学校だより No.16 では、第43回全国中学生人権作文コンテストで内閣総理大臣賞を受賞された京都府亀岡市立育親学園8年の寺竹瑠音(てらたけるね)さんの作品を紹介させていただきました。そして、その際に生徒のみなさんから意見をロイロノートで募集したところ、なんと193人の方が考えを聞かせてくれました。たくさんの生徒のみなさんが、寺竹さんの作文をきっかけに自分の身の回りに目を向けて、自分の行動や言動、仲間とのかかわり方を考えてくれました。ありがとうございました。

亀山中学校生徒のみなさんが、日ごろの学習を大切にしてくれていること、自分自身がこれからどんな人になっていきたいかをしっかりと考えてくれていることをうれしく思います。合唱コンクールへの取り組みをはじめとして2学期にはクラスの仲間と絆を深める機会がたくさんあります。そんな日常の中で、“人とのかかわる喜びを持ち、絆を作る生徒へ”高まってほしいと思います。



夏といえば何を思い浮かべますか。スイカに花火、かき氷、セミの鳴き声、…。そんな中で私はやはり高校野球が欠かせません。毎年の楽しみであるとともに、8月20日ごろになると甲子園大会の決勝戦が行われ、それが終わると、そろそろ2学期の用意なきやと感じさせられてきました。

さて今夏の高校野球で印象的だったことをお話したいと思います。それは、一昨年夏の甲子園大会を107年ぶりに制した神奈川県慶應義塾高等学校の山田望意主将の神奈川県大会での選手宣誓です。まずはその全文をお読みください。

宣誓、七夕の日に願います。今年の神奈川大会が最高の大会になりますように。最高の大会は、数多くのいい試合で作りあげられます。いい試合には選手全員のいい顔があふれています。私の考えるいい顔とは、真剣勝負の顔、ナイスプレーに喜ぶ顔、そして大好きな野球を全力で楽しむ顔です。しかし、その顔は自分一人で作ることはできません。チームメート、支えてくれる家族、指導者、関係者の方々はもちろん、同じ野球を愛する相手がいてから、成り立つものです。

ここで、選手の皆さんにお願いがあります。今大会中、お互いのチームの好プレーに対して拍手や歓声を送り、たたえ合うことにしませんか。試合の中で、お互いを認め合い、試合の後、このチームと戦うことができて良かった、そう思えるいい試合が続く、そんな最高の大会にしませんか。

私たち選手一同は、ありがたい気持ちを忘れず、いい顔で、常にチャレンジし続けることを誓います。

令和7年7月7日、選手代表、慶應義塾高等学校野球部主将、山田望意

高校野球といえば甲子園という夢をかけた真剣勝負の場ですが、この宣誓からは互いに対戦相手を尊重した同じ野球を愛するもの同士のつながりを期待させてくれます。慶應義塾高校が優勝した時、長髪の容姿と、心から野球を楽しむ選手の姿は、高校野球の新たな可能性を感じさせるものでした。スポーツの世界も時代とともに変化しようとしています。今、中学校も部活動の地域展開という新たな局面を迎え、変化していく時に差し掛かっていますが、中学生のみなさんにはスポーツに親しむ活動の原点を大切に、豊かな経験を積み重ねてもらいえるよう、取り組んでいきます。

# 広島平和記念式典

2025.8.6.



3年生のみなさんには修学旅行で訪れた広島の記憶はまだ鮮明なことでしょう。8月6日平和記念公園において、戦後80年の節目となる「平和記念式典（広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式）」が行われました。午前8時から行われた式典には、被爆者や遺族の代表をはじめ、石破総理大臣のほか、過去最多となる120の国と地域の大使などを含むおよそ55,000人が参列しました。

広島市の松井市長は平和宣言で「世界中で軍備増強の動きが加速し、各国の為政者の中では、『自国を守るためには、核兵器の保有もやむを得ない』という考え方が強まりつつあるが、こうした事態は、国際社会が過去の悲惨な歴史から得た教訓を無にすると同時に、これまで築き上げてきた平和構築のための枠組みを大きく揺るがすものだ」と述べ、懸念する気持ちを表しました。

また、地元の小学生2人が、「平和への誓い」を述べました。以下に抜粋して掲載させていただきます。

## 平和への誓い（抜粋）

被爆から80年が経つ今、本当は辛くて、思い出したくない記憶を伝えてくださる被爆者の方々から、直接話を聞く機会は少なくなっています。

どんなに時が流れても、あの悲劇を風化させず、記録として被爆者の声を次の世代へ語り継いでいく使命が、私たちにはあります。

世界では、今もどこかで戦争が起きています。

大切な人を失い、生きることに絶望している人々がたくさんいます。

その事実を自分のこととして考え、平和について関心をもつこと。

多様性を認め、相手のことを理解しようとする事。

一人一人が相手の考えに寄り添い、思いやりの心で話し合うことができれば、傷つき、悲しい思いをする人がいなくなるはず。周りの人たちのために、ほんの少し行動することが、いずれ世界の平和につながるのではないのでしょうか。

## One voice.

たとえ一つの声でも、学んだ事実思いを込めて伝えれば、変化をもたらすことができるはずです。

大人だけでなく、こどもである私たちも平和のために行動することができます。

あの日の出来事を、ヒロシマの歴史を、二度と繰り返さないために、私たちが、被爆者の方々の思いを語り継ぎ、一人一人の声を紡ぎながら、平和を創り上げていきます。